市議会レポート

2017年6月市議会

日本共産党 市議 久永かずえ 質問 発言

戦後72周年の“夏”を迎える2017年6月議会で、日本共産党・久永和枝市議は「平和」をめぐる問題をとりあげて質問しました。主な内容を紹介します。

●「平和」の問題めぐり市の認識・姿勢をただす

「暮らしとつながる平和行政について」、お伺いいたします。

1945年の8月6日に広島へ、8月9日には長崎へと落とされた原子爆弾。日本が朝鮮、中国などアジア諸国を侵略して始めた戦争ですが、原爆は一瞬にして多くの一般市民や子供たちの命を奪いました。生き延びた人たちも傷や後遺症で亡くなり、今も苦しんでいる方がいるほど恐ろしい武器です。ところが「安全保障の威嚇、使用のため」などの理由で、世界には今も1万5,000発の核兵器があります。そして、これに対して原爆の威力や危険性をふまえて「核兵器をなくしたい」という思いと行動が大きな流れとなり世界に広がっています。

このもとで今年、2017（平成29）年5月22日、核兵器禁止条約を交渉する国連会議の議長が、核兵器禁止条約の草案を発表しました。草案は、核兵器の使用が破滅的な結果をもたらすことを強調（条約前文）し、「核兵器使用の被害者及び核実験被害者の苦難に留意する」、さらに、核兵器廃絶のための「市民的良心の役割」を指摘、「多数の非政治的組織及びヒバクシャの取組」を高く評価しています。また、核兵器の法的禁止の内容として、核兵器の開発、生産、製造、取得、所有、貯蔵、移転、受領、使用、核爆発実験などを禁止しています。

この草案が6月15日から行われる国連会議の第2会期での議論の基礎となり、平和を願う私たちも大いに期待するものです。

世界では着実に「平和」への道を歩き始めています。ところが日本ではどうか。あの戦争が過去の出来事ではなく、いま再び起こるのではないかという懸念が広がっています。そして今、その流れを許してはならないと、「平和」を意識したパレードやイベント、署名活動などが全国で行われています。繰り返される北朝鮮のミサイル発射やテロ事件など、暗い報道も続いています。国会でも、武器の輸出ができるようにしてきたり、危険な戦場に自衛隊が行けるように集団的自衛権の行使容認をしたり、ものを言う市民への威圧となりかねない共謀罪を推し進めるなど、戦争ができる国づくりへの準備が着々と進められようとしています。平和のためにやるべきことは何か。政治的に立場が異なっていても、誰もが望み一致できるのが「平和」というテーマです。

そんな中で、昨（2016）年、大府市が行った「平和都市宣言」は、市民の思いと重なる大きな政策だと評価できます。その上で、「宣言」にもとづく平和のためのとりくみを市民と一緒にどのように前に進めていくことができるのか。ともに考えられたらと思い、以下の質問をします。

❶「平和都市宣言」を行うことにつながった、市長自身の「平和」への思いは？

❷市長が「平和首長会議」に加盟して「平和都市宣言」を行った大府市として、世界へ向けての平和への発信は、具体的にどのように行っていく考えか？

❸これまで「平和」というテーマは「健康都市」の中に含まれるとしてきたが、今後、どのよう

な位置付けを考えているのか？

❹市内での行事や市外の平和に関する大会や式典、平和首長会議の総会などに出掛けることなど、市民との「平和」の共有をどのようにしていくのかについて 3 点質問する。

①平和首長会議（総会）や平和に関わる式典などで得たものをどのように市民に伝えていく考えか？

②平和のためのとりくみには、市長が行っていくもの、大府市として取り組むもの、それぞれの市民団体が取り組んでいる平和活動など多彩にあるかと思うが「平和」という一致点で市民と一緒に取り組めるものがあれば、より深いものになり広がっていくのではないか。今後、平和への取組を市民とどのように進めていく考えか？

③市民との「平和の共有」について提案する。「大府市から見た戦争」をテーマに、特徴的な平和行政を目指してはどうか。原爆投下の夏にだけ「平和」を意識するのではなく、大府市に関わる戦争の記録などから「平和」を考える。例えば、大倉公園休憩棟の地下にある「防空ごう」の公開を 2 月の盆梅展の折に行うなど、日々意識をして伝え、生活の中で「平和」を自然に感じることができれば、それが理想ではないかと考える。大府市に関わる戦争の記録などから、生活の中で「平和」を感じる取組を広げてはどうか？

❺子どもたちへの「平和教育」について。隣の東海市では中学生を沖縄へ派遣し平和を学ぶとりくみをやっている。広島、長崎へ学習に行く自治体もあり様々だが、大府市としても、子どもたちへ伝えていくことは大切だと市も感じているかと思う。子どもたちへの「平和教育」について、具体的に考えていることは何か？